

2024年(令和6年)10月2日(水曜日)

富士ニュース

酪農の現状学ぶ座談会 高校会議所が開拓農協組合長と



丸山組合長を囲んで記念撮影(提供写真)

富士宮高校会議所は、このほど、朝霧高原の酪農業を支える富士開拓農協の丸山富男組合長との座談会を西町レトロ館で開いた。朝霧高原の牛ふんとニジマスの残渣(ざんさ)を

使ったオリジナル堆肥「マスマス元肥(げんび)」の普及活用に励んでいることから、酪農の現状について学んだ。丸山組合長は、朝霧高原の酪農業の状況をはじめ、海外との交流

今後の日本、若者への期待などに話を広げた。メンバーからは円安や飼料高騰、後継者などに関する質問があり、活発に意見交換した。同会議所は、マスマス元肥を耕作放棄地の解消に役立てる活動を進める中であって、牧之原の茶産地の耕作放棄地で、飼料用作物のデントコーンなどを栽培している話のほか、メチオニンというアミノ酸を多く含むマスマス元肥は、お茶や飼料用植物の栽培に向いているという話も聞けて大変参考になった。今後も丸山さんの牧場の見学、牛乳を活用した商品開発などで交流を続けたいと報告した。